七十五日國粋會の梅津勘兵衛、倉持直吉、外一名は會社に到り調停を申込んだが拒絶された。

町民大會

別項の如く會社の頑迷のため、折角の新争議は暗黒不幸のものとなつた。之に対してさらでだに會社に反感を抱いてゐた一般町民の反會社熱は愈々高潮に達し、茲に一大爆起を促し、廿五日會社糾弾の町民大會を野田町豊原神社に於て開かんとしたが、此の形勢に驚いた會社は官憲に泣ついたので、町民大會は遂に野田署の暴壓に遭ひ解散させられ、町民の熾烈なる意志は蹂躪されたが、暴壓に依つて民衆の意志を最後まで抑制し得べきものではない。其後町民の反會社熱は益々濃度を加へつゝある。

盟休愈々具体化

二十七日の対策協議會に於て盟休問題の大綱は具体的に決定を見たが、それに依つて翌二十八日は第一回の盟休児童の集合を催したが、約五百名集合盛なる好成績だつた。越へて一月一日木村盛、重廣虎雄、斎藤勇、赤松常子及び山口京市の諸氏は盟休に関し第一回の教員會議を開き、三日の父兄大會其他具体問題につき詳細協議した。受持並に教場は左の通り。

	受持教師	教場
第一学年	赤松常子	野田労働学校
第二学年	斎藤勇	野田労働学校
第三学年	青柳惣吉	関東醸造労働組合本部會館
第四学年	山口京市	関東醸造労働組合本部會館
第五学年	斎藤勇	関東醸造労働組合本部會館
第六学年	重廣虎雄	関東醸造労働組合本部會館